

秩序の敏感期 （ いつも同じ場所に片づきたい ）

先日のことです。 子ども達は机でそれぞれお仕事をしていました。
ある程度時間が過ぎて子どもがもうしないという表現をしたので、保育士が一人の子どもにそっと声をかけました。

その子はその声かけに反応し椅子から降り、椅子を机の中に戻してからお仕事の道具が入っているお盆を両手で持ち、棚の所まで行くとそっとお盆を置きました。その子は最近保育士の片付けを見てから同じようにするようになっていて、棚に置くときの置き方はゆっくりでとても静かに置きます。こんなに小さい子がそこまでできるんだと驚くと共にうれしくなりました。

つきぐみのお仕事の道具は棚にあります。子ども達は自分で選び、歩ける子はお盆を持って机に行き、終わったら棚まで自分で運びます。これは**秩序の敏感期**です。

つきぐみの他の玩具もそれぞれ棚にあたりと場所が決まっていて、出したらここに戻そうねと子ども達に日々伝えています。いつでも「整えられた環境」を準備できるよう気を配っています。

だから子ども達も安心して活動しているように思います。

この整えられた環境がお家の中にあると玩具も選べるし片付けもできるようになり、それが習慣化して「片付くと気持ちがいい」という気持ちがわきおこるのではと思います。
お子さんと一緒に片づきたい環境作りをしてみませんか。

* 秩序の敏感期・・秩序感（ いつもと同じ場所、同じ順番、同じ習慣 ）

玩具の整理と循環

玩具は、家族全員が過ごす部屋にも置けると良いですね。棚があると子どもは玩具をいつも同じ場所に片づけることができより大きな満足感が得られます。環境に秩序があるということは、子どもに安心感を与え、環境への信頼を芽生えさせます。
棚の玩具はきれいに収まる程度の数だけ出しておきましょう。

「 デヂタでチたできた！ 」 スーザン・M・スティーブンソン著 引用

